

平成 25 年度 第 2 回 マザーレイクフォーラム運営委員会 議事録

日時	2013 年 5 月 23 日 (木) 18:15~21:00	
場所	びわこ豊穡の郷事務所	
出席者 (50 音順、 敬称略)	井手 慎司	滋賀県立大学環境科学部
	川端 隆弘	公益財団法人 淡海環境保全財団
	北田 俊夫	NPO 法人 びわこ豊穡の郷
	佐藤 祐一	滋賀県琵琶湖環境科学研究センター
	関 慎介	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課
	中野 隆弘	びわ湖エコアイデア倶楽部
	野田 晃弘	NPO 法人蒲生野考現倶楽部
	松沢 松治	びわ湖の水と地域の環境を守る会
	村井 洋一	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課
	村上 悟	NPO 法人 碧いびわ湖
	廣田 大輔	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課
	望月 孝幸	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課
	山口美知子	滋賀地方自治研究センター

※今回欠席（敬称略）：石河康久（滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課）、伊吹美賀子（湖南流域環境保全協議会）、小林泉（滋賀県琵琶湖環境部）、三和伸彦（滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課）、堀彰男（滋賀県魚のゆりかご水田プロジェクト推進協議会）、渡辺維子（元：公益社団法人滋賀県環境保全協会）

今回の決定事項（要約）

- ・ 今回の議論も踏まえ、一部メンバーでびわコミ会議のプログラムの詳細について詰めていく。
- ・ まず委員自らが自分たちの団体（活動）に関するシートを作成する。シートのフォーマットについて修正すべき点などがあれば、早急に連絡する。
- ・ 委員の身の回りで関係しそうな団体・個人に上記シートの記入の依頼を進める。

1. びわコミ会議の進め方について

5 月 7 日に運営委員会の一部メンバーが集まり、びわコミ会議の進め方に関する意見交換を行った。その結果について説明を行い、それをもとに議論を行ったところ、以下のような意見が出された。なお意見は内容ごとに区分しており、必ずしも時系列や発言者によって並べられていない。

(1) 方針・目的

- ・ すでに活動を進めている人たちが、私たちと同じように思ってくれる仕組みをつくる必要がある。
- ・ 計画への位置づけが重要であり、それがベースで対話が進められる。
- ・ 来た人たちが何でつながれるのか？課題、目標、成果などが考えられる。
- ・ 何を目的として集まれるのか？「意識を共有しましょう」では難しいか。
 - 「誰かの課題（目標）はみんなの課題（目標）」といったことが確認できるとよい。
 - 「様々な活動が実施されている中で、自分の立ち位置が分かる」ではどうか。

- 「一緒に始めましょう」といったより成果の見えやすいものを出した方がよいかもしれない。
- ・ 団体にも色々なところがあり、必ずしも琵琶湖に関わらないところもある。しかし、自分たちの立ち位置に気づければよいのではないか。
 - 例えば米原市のある取り組みでは、まちづくりを目標としているのだが、話を聞いてみると琵琶湖と大いに関係があった。そういう事例が他にもあるだろう。
- ・ 県の人が頑張るというのではなく、みんなで頑張るという空気づくりが重要である。どれだけ思いを持って当事者が関われるかが鍵である。

(2) プログラム

- ・ 計画を題材として議論を行うのは、初めての人には難しい。知っている人がフォローする等の方法を考える必要がある。
- ・ 漠然と議論を進めるのではなく、会議の目標やプロセスをきっちり決め、テーマをつくって議論を進める必要がある。
- ・ グループに分かれて議論を行うとすれば、成果物の共有の方法について検討する必要がある。
- ・ いわゆる一般の人でも参加すると考えられるが、同じように議論や発表ができるのか。
 - 「活動を話して」ではなく「今日来たきっかけは」ということであれば話せるだろう。
- ・ 聞きに来る人もいるし、話したい・伝えたいという人もいる。自分の所属している団体であれば、知恵を貸してくれる人探しという目的がある。一方聞きに来る人のために、眺められる場があってもよい。
- ・ ブース発表をしてもらうことで、話をしたいという人たちに一定満足してもらうことは可能かもしれない。
 - ただしブース数が多ければ発表時間も限られる。川づくりフォーラムでは発表数を限定している。
- ・ 例えば京都・環境教育ミーティングでは、地域ごと、あるいはテーマごとに**集まって交流会**を実施していた。こちらでも地域やテーマ、動機などの分野ごとに分かれて集まってみてはどうか。
- ・ 会議の午前中に登録用紙（シート）に記入してもらい、午後に公表するなどの仕組みを検討してはどうか。
- ・ 周囲の人に ML21 計画の指標や目標の話をしたら、「見通しのついている指標やそうでない指標があるのでは？」と言われた。例えば指標をネタに、自分（団体）の位置づけが理解できるとよいかもしれない。

(3) 成果のイメージ

- ・ 「仲間をみつける」というのが会議のアウトプットとなる。
- ・ それぞれの位置づけが一目で見られるような可視化の工夫が必要である。
- ・ 可視化ができれば、こんなにやっている、一方で実はここが欠けている、といったことが見える。

(4) 呼びかけの方法

- ・ Web サイトに位置づけをアップして、それを見た人が仲間に入れる仕組みも検討してはどうか。
- ・ 「マップで発表するから来て！この日のために一緒にやろう！」と声をかける。
- ・ 分野が異なる団体に声をかけるのは難しいのでは。
 - ML21 計画は暮らしの話も入っており、一見違うようでも実は大いに関連するということがある。例えばおうみ未来塾なども声をかける対象としてあてはまるのではないか。
- ・ とにかく広げることが重要である。チラシに MLF のことを記載してもらうことなども引き続き実施していく。
 - 近畿「子どもの水辺」交流会（今年は滋賀県で開催）に中村大輔さんがかかわっておられる。連携先として検討してはどうか。

2. 今後について

(1) びわコミ会議のスケジュール

- ・ 8/31（土）10:30～16:30 とし、場所は天津（コラボしが）とする。他の場所も検討したが、今回は多くの人に集まってもらうことが必要であることから、集まりやすい場所（天津）とする。

(2) シートの記入と依頼について

- ・ まず委員自らが自分たちの団体（活動）に関するシートを作成する。シートのフォーマットについて修正すべき点などがあれば、早急に連絡する。
- ・ 委員の身の回りで関係しそうな団体・個人に記入の依頼を進める。依頼時の資料としては、①記入シート（2種類）、②ML21 計画概要版、③びわコミ会議チラシ（素案）とする。琵琶湖政策課から各委員に送付する。
- ・ 依頼先は、委員間で重複しても構わない。

(3) 今後の進め方

- ・ 本日の話も踏まえ、また一部メンバーでプログラムの詳細について話し合う。
- ・ 次回委員会は 6/24（月）18:15～、場所は県庁とする。

— 以上 —